



会津医療センターから こんにちは！



**【24】 看護部（カテーテル室）
主任看護技師 大竹 奈津美**



『患者さんの思いと看護』

心 臓の治療と聞くと皆さんはどのような印象を持ちますか？きっと、とても繊細で、慎重に行う治療をイメージし、不安を抱く方も多いのではないかと思います。そんな気持ちにしっかり対応し、かつ安心して治療を受けてもらえるように、私たちは医師、看護師、臨床工学技士、放射線技師、薬剤師など多職種でチームを組んでいます。一つだけ宣伝をすると、当院は会津で唯一、心房細動などの不整脈に対する心臓カテーテルアブレーション治療を常勤の医師が行っているんです。

診察でアブレーション治療の日が決まったら、まずは看護師との面談です。治療当日のイメージができるように、写真入りのパンフレットなどを使いながらお話します。次に治療を受けようと思った理由や自宅での生活について伺います。

ある患者さんは「介護が必要な母をベッドから車いすに乗せて一緒に食事をとるのが日課です。でも、不整脈が起ると身体に力が入らず、母を車いすに乗せることができなくて困っています。だから、母のためにも治療したいんです。」と話されました。私たち医療者にとって、治療を決めた理由を知るとはとても大切なことです。なぜなら、患者さんにとっては治療への参加の第一歩であり、同時に医療者にとっては患者さんの退院後の生活を考えるきっかけになるからです。

治療前にチームで集まって話し合い、不安軽減の対策や治療内容、患者さんの思いを共有します。当日は、面談をした看護師が患者さんのそばで声をかけながら治療に付き添います。治療を終えて外来を初めて受診したときには、自宅での生活状況も伺います。不整脈の苦痛から解放された喜びや、「地元で不整脈の治療を受けられてよかった」という声を聞くことができ、私たちもやりがいを感じています。

これからも患者さんと家族の思いを受け止め、安心してアブレーション治療を受けられるよう、チーム一丸で努力してまいります。